

PHAYAO レポート 2017-02

(活動のかたわらで・さえきてるお)

2017年7月14日「カオパンサー」のしばらくのしぐれ時



カオパンサー(タイの仏教行事で雨期の始まりの日です。3ヶ月後には、終わりの日としてオーパンサー行事があります。昔は、雨期にはいと道は粘土質のため歩くこともままならない悪路となります。

外に出られない日が続くためお坊さんはお寺にこもり修行をします、この間の食料・日用品をお寺に奉納する習わしです。国を挙げての一大行事で休日となりほとんどの国民は、お寺にお供え物をもってお参りします。特に行政機関、学校、企業、団体は、集団で大きな蠟燭と、お坊さんの日常生活用品を車に積んでパレードします。国内全土で朝から夕方までにぎわいます。)の1週間目、雨の途切れを待ちきれず、ホイドウア村苗木希望者数確認のため村入りを決断しました。

昨年、「わだち」コンクリートを施工しているが、この期の状況は極めて悪く施工していない箇所も滑って危ない状況から副村長さんがチェーンを持ってくることになっていました。

七割がた登った極めて急坂で危険な箇所に来て「わだち」をじわじわと進み、あと30センチで安全帯に入るところで滑り、脱輪した途端、車は最悪の粘土の上を滑り出し加速するごとく下りはじめた「危ない!」と思い気や」6~7メートルすべったところで幸いに止まった。止まらなかったら車と共に谷底へ「バックダイビング」命からがら免れた!!滑りながらもゆっくり50メートルくらいバック少し広い場所で切り返ししながら方向転換しその場に車を放置した。

要るものをリュックに入れポンチョを着て傘をさし歩いていくことにした。ジッポンスタッフは、村民世帯の名簿と朝途中チェンカムで買った弁当をリュックに詰め滑り止め靴に履き替え歩きに備えた。

しばらく登るとバイク2台が下ってくるのが見えた、1台にはコーソーノー(村の識字教室)の若い女の先生が後ろに乗り、チェーの付いた先生のバイクには、副村長が乗って背かごにチェーンを入れて迎えに来た。先生は危険を避けて、ふもとの舗装道までバイク共に送ってもらっている。

我々は、車で行くことをやめ歩いてのぼり始めたのでチェーンの必要はなくなった。

せっかく持ってきてくれたのだが、さらに無理をして事故になるのを恐れた。

雨は止むことなく時折大雨を繰り返した。滑りながら歩いた40分ようやく村のみんなの待っている識字教室に到着した。ひざ下の粘土汚れを軒下の雨水で洗い安堵した。

今日の出席者は28名の他、村長・副村長・オボトー(選出議員)・ジッポンスタッフでそれぞれ10分以上のあいさつで住民会議が始まった。

村の問題に集中し、特に協働によるパタナー(村の開発作業)問題に活発な議論が交わされ熱心な質疑応答だった。

多くの問題を抱える中、村の団結と協働が欠かせない過渡期の様子で希望に向かっての士気の高揚が伺えた。昼食を役員さんたちと一緒に食べながら村民の課題に終始した。(いつもの、焼きなます・プレーン[魚仁](現天皇陛下が皇太子時代に贈られた淡水魚のテラピア)・ガイヤーン(焼き鶏)・カオニャオ(餅米ごはん)、とてもおいしく腹いっぱい!).....。満腹感にひたり、軒下のタイルの椅子で「うとうと.....」していると、いつの間にか若いお母さんが1歳の子供と対面に座って、あやしていた。来るとき置いてきた車へ便乗のため我々が帰るのを待っているとのこと。

帰りは、下りでさらに滑るので歩きはとても危ない。小雨の中ジッポンスタッフと若いお母さん背中におぶった赤ちゃんと共に徒歩で下りについた。しばらく歩くとお母さんは、「ツッカケ」を脱いだ粘土が積み重なり歩けない! 裸足になったがなお滑る!! そろそろと注意しながらの下り坂 40分、車までようやくたどり着いた。小雨は止んでいた、親子は、トラックの後ろドアを開け荷台に上がり乗った。車は、下りが正念場、ときおり滑る、緊張する中、恐る恐るゆっくりと山を下りた。

小さな村の学校前でお母さん親子が荷台から下りるのを見送った。

ここからホイドウア村までは、7キロの道のり、4キロは粘土の滑る危険な悪路。

今日は金曜日、寄宿舎にいる小学校1年生の男の子を迎えに来た。

親子3人で、またこの道を歩いて2時間帰る。

雨期の日常茶飯事である思うが、それにしても大変だ、でも、あと2年の辛抱

お父さんがから帰ってくる。 出稼ぎに行かなくて済む生活が待ち遠しい。

プロジェクトが始まってから希望が見えてきた、マンゴーも、ラムヤイの苗木も植えた。

「お父さんもう韓国に行かなくてもいいね! いかないでね!!」



村への進入路 (未舗装4km)

2017.07.saeki